

令和4年度

研修集録



秋田県立平成高等学校

〒013-0101
秋田県横手市平鹿町上吉田字角掛60
TEL (0182) 24-1195
FAX (0182) 56-3008

巻頭言

校長 松岡正利

新しい学習指導要領では探究型や対話型の授業が重視されている。これについては、教員が一方的に教えこむ知識注入・暗記再生型での授業では、先行き不透明で変化の激しいこれからの中社会に対応する力を育成できないという危機感があるからだといわれている。こうした傾向を受け、すでに公表されている大学入学共通テストでの試作問題でも対話型の出題や、主体的に課題解決を目指す探究型授業を題材とする設問が多く取り入れられている。

これからの中時代を生きていく高校生には、それまでに獲得してきた知識や経験を土台にして思考・判断し、それを相手によりよく伝えるために表現する力を身に付け、周囲と協働しながら問題解決に向かう力が求められている。こうした力は本来、社会生活においても必要とされる力であり、その基礎となる「学ぶ力」「生きる力」を高校段階で身に付けていかなければならない。

さらには、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指して1人1台タブレットや電子黒板の導入によるG I G Aスクール構想の実現が図られ、こうした授業環境の変化への対応も求められている。

これだけ学びに関する環境が変化し、教員である我々の目の前の生徒達の学習履歴・環境も変化してきているのであれば、これまでの教師の経験に頼った授業を繰り返していくだけでは生徒の理解が深まる、よりよい授業には結びつかないだろう。

教員は、その職責を遂行するために、絶えず研修に努めることが求められているが、それは何も法律に明記されているからというだけでなく、環境の変化に我々教員が対応していくために求められている姿勢といえる。

今回のこの研究収録がその一助になることを願っている。

令和4年度 研修集録 目次

巻頭言 校長 松岡正利

1. 校内研修

①各教科の研修記録

(国・地公・数・理・保体・芸・英・家・商・情) P 1 ~ 1 0

②相互授業参観（9月）

・実施要項 P 1 1

・相互授業参観のまとめ P 1 2 ~ 1 4

③公開授業研究会（11月10日）（数学・保健体育） 数学 P 1 6 ~ 2 1

・開催要項 P 1 5 保健体育 P 2 2 ~ 2 7

・学習指導案 ・授業研究協議会記録

2. 校外研修

A講座(年次研修)

・県立学校新任教務主任研修講座 田中剛 P 2 8

・高等学校新任学年主任研修講座 佐々木優子 P 2 9

・初任者研修講座（高等学校） 秋元延大 P 3 0 ~ 3 1

・高等学校講師等研修講座 A 赤塚裕人 P 3 2 ~ 3 3

B講座

・情報教育推進講座 沼倉徹 P 3 4

・学校組織マネジメント研修講座 佐々木司 P 3 5

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(国 語 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	言語活動の充実をはかり、国語を的確に表現する力を伸ばすための指導法を工夫する

I 重点目標

- 1 語句の読み書きと語意を理解する力を高め、その定着をはかる。
- 2 話し合いや発表の場面での適切な表現を身に付けさせる。
- 3 文章の構成や展開を意識した表現を身に付けさせる。

II 研修計画

- 1 校内漢字力テストで語彙力の充実を図る。漢字検定の受検に際し、目的意識を高めて資格取得を目指す。
- 2 授業内容を精選し目標を簡素化するとともに、必要に応じてグループでの話し合いや発表を組み込み、達成感のある授業を工夫する。
- 3 家庭学習の習慣が身に付くように予習項目をはっきりさせるとともに、小テストを定期的に実施する。

III 授業改善計画

- 1 前時の内容確認や本時の振り返りに生徒の発言や話し合いを取り入れる。
- 2 暗唱や音読を積極的に実施し、多様な表現法を吸収させる。

IV 実践の成果と今後の課題

グループ活動を積極的に取り入れ、生徒同士の話し合いを通して考えを深める場面を多く設けることができた。また、ＩＣＴを活用することで、生徒が自分の考えを表現したり、相互評価したりしやすい環境づくりに努めた。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(地理歴史・公民科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	自ら学ぶ意欲を引き出すとともに、広い視野から社会事象をとらえて 分析し、思考し、表現する能力・態度を育成する

I 重点目標

- 1 学習意欲・基礎学力の定着を高めるために、指導方法の工夫や教材の開発などに努める。
- 2 各科目相互の指導事項・指導内容の連携を図り、社会に対する多角的視野の育成を目指す。
- 3 多様な進路志望を考慮しつつ、指導内容の精選や適切な指導に努める。

II 研修計画

- 1 指導方法の研究と授業での実践。
- 2 資料の収集と教材化、および効果的提示方法の研究。
- 3 科内での指導事項・指導内容等の検討。

III 授業改善計画

- 1 発問の工夫（一問一答的な用語確認にとどまらず、「なぜ」を問うことで、考察させ、説明させる）
- 2 視聴覚資料・実物資料・図説資料集などの効果的な活用（資料を活用して考察させる）
- 3 言語活動の充実（自ら進んで探求するように調べ学習や課題学習を実施し、レポート作成やプレゼンテーション等によって成果と課題を発表させる）
- 4 ICT 機器の活用によるレポート作成やワークシート・プリントの活用

IV 実践の成果と今後の課題

- 1 一問一答形式ではなく、「なぜ」「どうして」を問う発問を多くすることができたと思う。
- 2 視聴覚資料・教材の活用し、社会的事象の考察をさせることができた。
- 3 クロームブックの活用などを通し、調べ学習や発表などを実施した。
- 4 パソコンを使用し、レポート作成を実施した。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(数 学 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	基礎学力の定着と積極的な思考を促すための授業づくり

I 重点目標

- 1 基礎学力の定着
- 2 生徒の考えを引き出す発問の工夫
- 3 多様な進路に対応できる学力の向上を図る

II 研修計画

- 1 校内研究授業
- 2 高教研数学部会総会授業参観、情報交換会
- 3 数学部会研究大会
- 4 他校、他教科の授業研究会や授業研修会に参加する

III 授業改善計画

- 1 授業のはじめに、前時の基本事項を確認する。
演習時間を多く確保するとともに、生徒同士で教えあう機会をつくる。
- 2 発問では、「なぜか」を問い合わせ、説明させる。
板書や課題、考查の答案で、過程をきちんと書き数学の用語を用いて説明する
よう徹底する。
- 3 進路に応じて課題を与える、繰り返し学習させる。

IV 実践の成果と今後の課題

新型コロナウィルスの影響により、中止およびオンラインでの開催となった研究会等が多かった。出席停止等により学習機会が減少したこともあるが、課題を課し、基本知識の習熟の機会を確保した。また、定期的に添削指導を行うことにより、学習習慣の定着に努め、問題を解く上でどのように考えたかを発表させることにより、論理的に説明する力の育成を図った。また、朝学習に課題を提出し添削指導を行ったり、長期休業中に補習を行い、基礎学力の定着や問題解決力の向上に努めた。3年生には、授業で就職問題や大学入試問題を繰り返し演習するとともに、個別指導により進路実現に向けた学力向上を図った

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(理 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	自然事象を科学的な視点でみつめ、論理的に考える態度の育成

I 重点目標

- 1 実験・観察を通して、科学への興味、関心を高める。
- 2 日常生活に関連した教材を用い、主体的に学ぶ力と意欲の育成を図る。
- 3 言語活動を積極的に取り入れた授業を展開することによって積極的な学習態度と表現力を育成する。
- 4 教材を精選し基礎学力の定着を図る。

II 研修計画

- 1 各科目において実験、観察を多くし、発表や説明など言語活動を効果的に取り入れた授業の展開に努める。
- 2 本時のねらいを明示し、日々の出来事や身近な事象を取り上げ、その根拠を探る授業の実践を通して、「わかる授業」の工夫に努める。
- 3 入試問題の傾向や難易度をしっかりと把握し、小テストや単元毎のテストや演習などを通じて生徒へ還元する。

III 授業改善計画

- 1 実際の教材に触れる機会・体験を増やし、観察やデータを元に結論を導き出す手法と思考を時間をかけながらも継続させる。
- 2 上級学校の試験問題の難易度、傾向把握と情報収集によって教材精選を含めた学力養成を図る。
- 3 発表、討論など言語活動ができるだけ取り入れ、積極性の養成も心がける。

IV 実践の成果と今後の課題

実験や、実際の教材に触れる機会を増やすことができた。また、電子黒板や Chromebook を用いることで、教科書や図表ではイメージしにくい部分を動画等を活用して伝えることができたと思う。また、本時のねらいを明示することで、最終的な目標を見据えて授業展開することができた。Chromebook を用いての調べ学習や Jamboard を用いてのグループ活動を取り入れ、言語活動も活発に行うことができた。

課題としては、今年度、入試に理科を必要とする生徒がいなかったため、入試動向の研究が十分だったと言えないところである。来年度は計画的に入試動向に適応した授業研究を行っていきたい。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(保健体育科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	明るく豊かで、活力ある生活を営む態度を育てる

I 重点目標

- 1 自己健康管理能力の育成
- 2 健康・安全に留意し、計画的、継続的に運動ができる能力と態度の育成
- 3 運動の楽しさを知り、積極的に運動する態度の育成

II 研修計画

- 1 個々の心身状態に関心を持たせ、体力を維持・向上させるための授業
- 2 規律を重んじ、自発的・積極的・協力的に活動する授業

III 授業改善計画

- 1 運動に関する課題解決能力を育む授業
体育や保健で身に付けた知識を関連づけ、課題解決に向けた活動を取り入れた授業の充実を図る。
- 2 すべての生徒が運動の楽しさや喜びを味わえる選択制授業の充実
一人一人の運動経験や技能の程度などを把握した上で、選択制授業を充実させ、自らの選択に基づいた種目への、責任感を持った積極的な参加と各種目の準備や片付け、運営等の実践と体力の向上を目指す。

IV 実践の成果と今後の課題

- 1 個人カードを活用することで、身に付けた知識を生かして課題解決を図ろうという姿が見られるようになり、どのような行動を選択すべきか以前よりも考える力が高まったように感じられる。
- 2 選択制授業では、自ら選んだ種目で仲間と協力しながら技能の向上を図り、生き生きと活動する姿が多く見られた。しかし、特に学年が下がるにつれて基礎体力や技能レベルが低いこと、また一部ではあるが運動に対し意欲的でない生徒も見られる。卒業後、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送るために知識や実践力を育むため、こうした課題を克服するべく授業の工夫を図っていきたい。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(芸 術 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	生徒の主体的な表現と干涉の能力を伸ばし、生涯にわたり芸術を 愛好する心情を養う

I 重点目標

- 1 芸術的な感性を育む教材の精選。
- 2 表現や鑑賞の基礎的な能力を伸ばすための基本指導。
- 3 美に対する感性を高め、芸術の幅広い自主的実践活動を目指す。

II 研修計画

〈音楽〉

- ①実技のための楽典、読譜力の向上
- ②西洋音楽、日本音楽の時代的作曲様式観の理解

〈美術〉

- ①理論と実技の一体化
- ②鑑賞の充実

III 授業改善計画

〈音楽〉

基礎的な楽典学習やリズム打ち、階名唱を通して読譜力の向上を図りながら、表現の能力を伸ばす。また、音楽史や作曲様式の学習と鑑賞を結びつけながら、楽曲の理解や鑑賞の能力の向上を図る。

〈美術〉

表現や鑑賞の実践的活動が主体的に広げられるような視聴覚教材の活用と幅広い分野の鑑賞の充実。

IV 実践の成果と今後の課題

〈音楽〉

音符、休符、音名、など基礎的な楽典を学習し、楽譜の理解を図った。音楽史の授業では、西洋音楽史だけでなく、日本音楽史と絡めて、歌唱、舞踊の一部を実践したことにより興味関心をもって鑑賞することができた。今後は、リズムアンサンブル活動にも取り組み、表現と鑑賞を関連を図りながら、授業を進めていきたい。

〈美術〉

ICT の活用によって、鑑賞・表現ともにより主体的な活動がみられ、自己肯定感を育むことができた。また基礎的な技術・表現・鑑賞の活動で、理解の定着を図るとともに美への追求へつなげることができた。今後は ICT の更なる活用をとおし、幅広い分野の表現・鑑賞の充実を進めていきたい。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(英 語 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	教科の知識・技能を活用する学習を充実させ、実践的な能力を伸ばす。

I 重点目標

- 1 家庭学習を習慣付け、基本事項を定着させる。
- 2 意欲・関心を高め、積極的な学習態度を育成する。
- 3 検定対策・大学受験対策を含め、教材の精選を図り、進路希望に応じた指導を工夫する。
- 4 異文化理解を深め、国際的な感覚・視野をもたせる。

II 研修計画

- 1 予習、復習の課題を明確にする。
単語テスト、朝学習、週末課題にしっかりと取り組ませる。
- 2 校内研究授業や校外の研修会に参加し、指導能力向上と授業改善に努める。
- 3 検定対策・大学受験対策の補習や添削指導を行い、主体的な学習習慣を確立させる。
- 4 ALTとのチームティーチングを積極的に活用し、四技能の実践的能力を育成する。

III 授業改善計画

- 1 単語テスト、小テスト、週末課題等で基礎力や学習習慣を定着させる。
- 2 新学習指導要領に沿った授業展開について研修する機会を多くもち、校外研修の内容や指導技術を科内で共有し、実践する。
- 3 各種英検対策や、大学進学希望者向けの補習・個別指導を充実させる。

IV 実践の成果と今後の課題

- 1 教科書に準拠した「ベーシックノート」を活用した予習方法や、新たな单元に入る前の例文確認など、科目に合わせた予習の指示を明確に行った。また、考查毎にノートチェックをして、学習状況の把握をした。考查実施前にチェックをすることで、考查範囲の学習内容の理解を深めさせることにつなげることができた。また、朝学習は授業内容に関連した内容で実施し、知識の定着を図ることができた。
- 2 校外研修として横手高校の授業研修会に参加した。本校では来年度から実施される「論理・表現Ⅰ」の授業を参観し、指導方法やアプローチの仕方など、様々なアイディアを得ることができた。来年度以降の授業展開に生かしていくたい。
- 3 2年生を中心に、英検に積極的に受検する姿勢が見られた。四年制大学進学希望者には、模擬試験の長文読解やリスニングなど、レベルアップ問題に取り組ませ、進学意識の向上を図ることができた。
- 4 今年度もALTとのTTで、Chromebookを使った学習プログラムである "kahoot"を使用した授業を行った。今年度はインターネットの接続状況も良く、誰一人取り残さずに意欲的な学習に繋げることができ、生徒にも好評である。普段の授業の学習内容の理解を、より一層深められるツールであるため、今後も有効活用していきたい。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(家 庭 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	家庭生活に必要な基礎的知識・技術を身に付けさせ、生活の充実向上を図ろうとする能力と態度を育てる

I 重点目標

- 1 生活の多様化や生徒の実態に即した指導内容を工夫し、学習意欲を高める。
- 2 基本的な知識・技術の定着を図り、成就感を得られるような指導を工夫する。

II 研修計画

- 1 進路や生徒の実態に即した授業内容の精選。
- 2 様々な体験実習やグループ活動などにより、発見や気づきがある授業の工夫。

III 授業改善計画

- 1 挨拶、返事、授業態度や提出物などにおいて、社会生活を意識した規律ある授業の雰囲気を作る。
- 2 基礎的知識・技術との関連性を図りながら、発見や気づきが生まれるようなスマーリングアップを意識した実習や体験学習を展開する。

IV 実践の成果と今後の課題

- 1 挨拶、言葉遣い、段取りを意識した時間の使い方に注目した指導を行った。特に、実習においては作品や調理完成までの流れをしっかりと確認し、毎時間の目標設定や、進捗状況の確認などをすることで、自分の位置確認をさせた。自然に互いに教え合ったり、助け合う様子も見られるなど、生徒間に役割分担ができ、意欲的に学習する様子が見られた。
- 2 授業プリントを毎時間回収し、学習の様子や定着状況の確認を行った。時事問題やニュース動画などを積極的に取り上げたことで、発見や気づきを促す事ができたのではないかと感じている。今年度は、ICTを活用した課題をいくつか実践した。学んだ知識を活用し課題に取り組むことで、達成感や成就感を得たり、実生活への応用の気づきになることを目的としていたが、操作の習熟度に差があり、完成できる生徒とできない生徒に分かれた。今後は、課題内容の精選や段階的に作業に慣れていくような授業の工夫をしたい。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(商 業 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	魅力的な授業づくりに向けた授業改善に取り組むとともに、キャリア教育を重視し、知識・技術を定着させ、自分で課題を見つけよりよく問題解決を図れる確かな学力を持った生徒を育成する

I 重点目標

- 1 ペアやグループによる話し合いや発表等の授業方法を取り入れ、魅力ある授業づくりに努める。
- 2 経済社会や実務に即した基礎的・基本的なビジネスに関する知識・技術を習得させるとともに、より高度な資格取得の達成に努める。
- 3 地域と連携し、体験的な学習を進めることにより、社会に総合的に対応できる実践的能力を育てる。
- 4 授業を通じた規律指導を行い、経済社会の一員としての心構えやマナーを身に付けせる。

II 研修計画

- 1 魅力あるビジネス教育を展開するため、経済社会の動向や商業教育の新分野研究を目的とした各種講習会や研究会に積極的に参加し、より専門性を深める。
- 2 生徒の学力向上のために、科内で授業見学や研究会を行い、将来に活かせる知識・技術を育むような授業改善ならびに授業力向上に努める。
- 3 課題研究および理論型経済科目において、時事的問題を教材研究に生かし、生徒の学習への興味・関心を高めることできるよう努める。

III 授業改善計画

- ・問題演習で終わるのではなく、言葉の意味や取引の内容について生徒の反応を見ながら説明や発問をする。
- ・スキルの面は、繰り返し課題に臨ませて鍛錬し、基礎的技術を定着させる。一方で課題は段階的に、身に付けた内容を発展的に活用できるように、また、実務で生かせるような設定の工夫をする。
- ・取り上げる教材をできる限り最新なものにし、また実際に即した教材を用いることで、生徒が解決しようという姿勢を持って取り組めるようとする。
- ・地域貢献活動について、3年生を中心に1・2年生も各種の事業に積極的に参加・協力する。

IV 実践の成果と今後の課題

- ・授業にグループワークやプレゼンテーションを取り入れて、学び合う機会を設定することができた。
- ・レポートの提出や補習授業を通して資格取得に向けた対策に力を入れた。1年3組の全商情報処理検定3級では、1月に受験した26名全員が合格するなど成果を上げた。
- ・商業系競技大会において、全国大会出場や県最優秀賞などの成果を上げることができた。
- ・地域のイベントや商品開発など今後も継続していく。授業だけでなく、企業人講話など外部の力も借りながら質の高い活動ができるよう工夫していきたい。

令和4年度

校 内 研 修 記 錄

(情 報 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用 するための知識および技能を身に付け、実際に活用する力を養うと ともに、情報社会に主体的に参画する態度を育成する

I 重点目標

- 1 情報の収集・加工・発信の能力の育成。
- 2 情報モラル・マナーなど情報を活用する態度の育成。

II 研修計画

- ・グループディスカッションや発表会を行うことにより、表現能力やコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・実社会に即した事柄やデータを実習に取り入れながら、各種ソフトウェアの活用能力や情報の表現能力の向上を図る。

III 授業改善計画

- ・基本的なワープロソフトや表計算ソフトの活用のしかたをしっかりと身に付ける。
- ・卒業後、必要となる情報・通信機器に関する知識(重要用語)や技術(操作能力)やモラル・マナーをバランス良くかつ全範囲にわたって身につけさせる。
- ・調べ学習、課題作品の作成、発表会、相互評価等において、生徒同士が話し合うことや教え合うことを奨励し、より良い作品の作成・イキイキとした学習活動を目指す。

IV 実践の成果と今後の課題

- ・生徒が主体的に学習できる環境作りの徹底を図るために、グループ活動や発表の機会を多く設けることができ、授業の中でも生徒達が能動的に動けていた。
- ・今後の課題としては、外部の教材(ライフケイズテック等)を今年度はあまり活用することができなかつたので、来年度は積極的に活用し、更なる生徒の情報技術の習得や、表現能力の向上に役立てていきたい。

令和4年度 相互授業参観 実施要項

企画研修部

1 目的

教員が教科を超えて互いに授業を参観し、意見等を交換し合うことにより、さまざまな視点から課題・問題点等を見い出し、授業改善の方策を探る。そして、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための魅力ある授業づくりを目指す。

2 期日 令和4年9月5日（月）～9月15日（木）

3 対象 全職員

4 実施方法

- ① **自教科と他教科の合わせて、2コマ以上の授業を参観する。**
 - ② 授業者に参観を申込み、**日時・クラス等を決める。**
 - ③ 参観後は、下の「授業参観シート」に参考になった具体的な点や感想等を記入し、**授業者に渡してください。**
なお、授業参観シートを企画研修部でまとめたいと思いますので、同じ授業参観シートを企画研修部にも提出のほどお願いします。
- ※ 「授業参観シート」はネットワークの共有フォルダにもありますのでご利用ください。
入力後、次のようにファイル名の後ろに氏名をつけて保存していただければ、企画研修部への提出はいりません。

保存時のファイル名の例

「授業参観シート 氏名」

保存場所およびシートのデータは以下にあります。ご活用ください。

¥Y Gyoumu47¥2 分掌¥80 企画研修部（公開）¥令和4年度¥6 校内 授業研究会¥R 4
相互授業参観 の フォルダ「記入済み授業参観シート保存場所」に保存をお願いします。

授業参観シート	
()月()日()校時()クラス 科目名()	
授業者()	参観者()
参考になった点	
感想等	記入のしかたは自由です。 箇条書きでもOKです。
授業参観シート	
()月()日()校時()クラス 科目名()	

数学 I	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフが簡潔で分かりやすい。 ・平方完成の公式は個人的に好きではないが、生徒が理解できていれば、式が簡略化され有効である。 ・最大、最小を求める時、先に x の値を求めてしまうのも作業効率上悪くない。 ・問題演習の授業だったので理解を前提としてどんどん進めていったと思われるが、説明とノートを取る時間を分けた方が説明をしっかり聞けると思う。 ・反応のあるクラスだがどんどん当てて覚醒させればいいと思った。 ・$x(3x - 1) = 0$ から $x = 1 / 3$ について説明不要だったが、商業クラスでこれができればなかなかのレベルだと思った。 ・多くの問題に立て続けに D を適用して性質を説明するのも、考えの幅を広げるのに有効だった。 	<p>いい雰囲気の授業でとてもいいと思います。</p>
コミュニケーション英語 III	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の左端に「本時の流れ」を明示していた。 ・導入では、前時の復習として“Criss-Cross”を取り入れて、英語の授業の雰囲気を上手に引き出していた。 ・板書では黄色のチョークを効果的に使っていた。 ・指名された生徒は起立回答していた。（授業内の生徒指導がよくいき届いていた） ・よい雰囲気の中、生徒は集中して授業に参加していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が真剣に授業に参加していた。 ・授業者の声量が十分で、生徒は聞き取りやすかった。 ・板書がきれいで、生徒は学習内容を理解しやすかった。 ・また、ノートを取りやすかった。
英語表現 II	<ul style="list-style-type: none"> ・新出語句・熟語が出た際に、類語も含めて関連付けて教えていた。 ・複数の意味のある熟語は頻度順に、用例を説明しており分かりやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は教師の話を集中して聞き、プリントの問題に取り組んでいた。

英語表現 II	<ul style="list-style-type: none">授業を聞いていない生徒は立たせるなど生徒にとってスリリングな展開もあった。	<ul style="list-style-type: none">分詞構文という難しい内容ながら、生徒のやる気を引き出して真剣に取り組ませている点が印象的であった。
---------	---	---

令和4年度 平成高校 公開授業研究会 開催要項

1 研究テーマ 思考力・判断力・表現力を高めるための授業づくり

一斉授業に終始するのではなく、じっくり考えたり、話し合ったり、内容を整理しまして発表するなど、「主体的、対話的で深い学び」を実現できるような学習活動の工夫を図る。

2 実施教科 数学、保健体育

3 期日 令和4年11月10日(木)

4 日程 14:30~15:20 公開研究授業
15:50~16:30 授業研究協議会

1 授業一覧

教科	科目	単元	学年・学科	会場	授業者
数学	数学A	確率	1年2組 (普通科)	1~2教室 (3階)	佐々木 司
保健体育	体育	現代的なリズムのダンス	1年1組 (普通科)	体育館 (1階)	秋元 延大

・次のような観点で研究協議を行います。

- ① 授業全般について
- ② 教師の働きかけについて
- ③ 生徒の活動について
- ④ 評価・その他について

6 申込 別紙申込書で、11月2日(水)までFAXでお申し込みください。

7 その他

- ① 当日は職員玄関で受付を行い、開始10分前まで各会場へおいでください。
- ② 授業研究協議会に参加できない方は、授業に関する意見・感想等を記入した用紙を受付に提出してください。
- ③ 感染症対策
 - ・発熱等がある場合は、参加をご辞退していただくようお願いいたします。
 - ・受付にて健康確認及び消毒等への協力をお願いいたします。
 - ・校内ではマスクの着用をお願いいたします。

平成高等学校 〒013-0101 横手市平鹿町上吉田字角掛60

担当:企画研修部 佐々木 司

T E L : 0182-24-1195

F A X : 0182-56-3008



数学A 学習指導案

実施日：令和4年11月10日（木）
5校時
会 場：秋田県立平成高等学校
クラス：1年2組
学校名：秋田県立平成高等学校
指導者名：佐々木 司

1 単元名	数学A『場合の数と確率』第2節 確率 使用教科書：最新 数学A（数研出版）
2 単元の目標	場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
3 指導に当たって	
(1) 単元観	本単元は、確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにすることを目標にしている。
(2) 生徒観	男子10名女子19名のクラスである。 おとなしい生徒が多い。授業態度は真面目である。教えられたタイプの問題は解けるが、応用する問題は苦手とする生徒が多い。
(3) 指導観	本時は「確率」の第10時間目の授業である。既習事項を元に身近な確率に関する事柄を数学化して考えることができるようになることを目標とする。
本時の学習活動	本時の目標：
(1) 本時の学習目標 (評価規準)	Question① A店の店頭にはガチャガチャが置いてある。中身は100個。うち1つはレアなおもちゃが入っている。このガチャガチャを100回回したとき、レアなおもちゃを手に入れる確率はいくらか。
	Question② あるアプリゲームのガチャのSSRキャラクターの排出率は1%である。 このガチャを100回回したとき、SSRキャラクターを少なくとも1体手に入れる確率はいくらか。
	① 主体的に学習に取り組む態度 ・2つの課題に対して、問題の違いに注意しながら考察しようとする。
	【評価規準】 ・Question①についての気づきをプリントに記入している。 ・Question②についての気づきをプリントに記入している。
	・教え合いをして積極的に取り組んでいる。
	② 知識・技能／思考・判断・表現 余事象の確率および独立な試行の確率を理解していく、それを利用できる。
	【評価規準】 ・課題に取り組み、答えを求めることができる。
(2) 本時の指導に当たって	・「確率」は降水確率など身近に使われる数学的知識である。本時は店先にあるガチャガチャと、アプリゲームのガチャの計算を通じてその違いを理解することが目標である。

(3) 指導過程

{評価の観点・・・①主体的に学習に取り組む態度②知識技能③思考・判断・表現}

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	ガチャについて	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標と授業の流れを確認する。 導入で国民生活センターのサイトの相談事例を見せる。 	
本時の目標：店舗などのカプセルトイ（ガチャガチャ）とオンラインゲームの電子くじ（ガチャ）の確率の違いについて考えよう			
展開 (40分)	Question①	<p>Question①を解く。</p> <p>グループに分かれる。 グループ毎に課題に取り組む。 できたら教師に解答を確認する。 後はグループ毎に答え合わせをする。 発表用シートに解答を記入する。 グループの代表が発表する (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 解けない生徒へは机間指導で対応するとともに、周りの生徒に質問するように促す。 解けた生徒にはグループでの共有をうながす 取り組みの意欲を机間指導で確認する。【評価1】
	Question②	<p>Question②を解く。</p> <p>グループに分かれる。 グループ毎に課題に取り組む。 できたら教師に解答を確認する。 後はグループ毎に答え合わせをする。 発表用シートに解答を記入する。 グループの代表が発表する (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 解けない生徒へは机間指導で対応するとともに、周りの生徒に質問するように促す。 解けた生徒にはグループでの共有をうながす 取り組みの意欲を机間指導で確認する。【評価1】
まとめ (5分)		<ul style="list-style-type: none"> プリントの「Thinking」や【今日のまとめ】を記入して、本時の振り返りをする。 	回収したプリントを見て評価する【評価2】

(4) 本時の評価

評価項目	評価の視点 [判断基準]		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる[A]	おおむね満足できる[B]	
主体的に学習に取り組む態度 [評価1]	積極的に問題を解き、他の生徒と教え合っている。	問題を取り組み、自力解決しようとしている。	適宜ヒントを与えるながら、励ます。
知識・技能 [評価2]	余事象の確率および独立な試行の確率を理解し、問題を解くことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 余事象の確率および独立な試行の確率を理解できた。 他の生徒に教えて問題の解法を理解した。 	机間指導をするとともに、学び合いでの解決を促す。

ガチャの確率

Question①

A商店の店頭にはガチャガチャが置いてある。中身は100個。うち1つはレアなおもちゃが入っている。

このガチャガチャを100回回したとき、

レアなおもちゃを手に入れる確率はいくらか。説明（式・計算・文章など）及び答を以下に記入してください。

説明

（

$$\left(\frac{99}{100}\right)^{100} \approx 0.366$$

説明

）

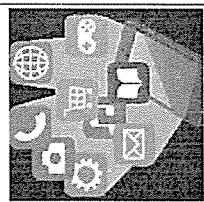
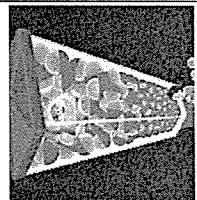
答

Question②

あるアプリゲームのガチャのSSRキャラクターの排出率は1%である。

このガチャを100回回したとき、SSRキャラクターを少なくとも1体手に入れる確率はいくらか。

説明（式・計算・文章など）及び答を以下に記入してください。
必要があれば以下の値を利用してください。



Thinking

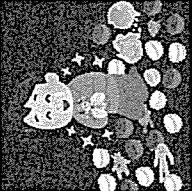
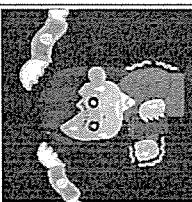
この2つの確率の違いについて気づいたことや、考えたことを以下に記入してください

【今日のまとめ】

① 気づきや分かったことをまとめよう

② 【自己評価】自分の頑張りを振り返って当ではまるものにつけて、理由を書こう

（ とても頑張った・頑張った・もっと頑張れた・全然ダメ ）



答

Question①の答

ガチャガチャの中身は100個なので、
100回回すとすべての中身を受け取ることができる。
したがって必ずレアなおもちゃを手に入れることができることができる。
よって確率は1である。

Question②の答

(少なくとも1体SSRキャラクターを

手に入れることができる確率)

$$= 1 - (100 \text{ 回回したとき } 1 \text{ 体も SSRキャラクターを手に入れる確率})$$

より、1回のガチャでSSRキャラクター
を手に入れる確率は

$$1 - \frac{1}{100} = \frac{99}{100} \text{ より } 100 \text{ 回のガチャで}$$

SSRキャラクターを手に入れることができ
る確率(は) $\left(\frac{99}{100}\right)^{100} \approx 0.366$

従つて

(少なくとも1体SSRキャラクターを
手に入れる確率)

$$= 1 - (100 \text{ 回回したとき } 1 \text{ 体も SSRキャラクターを手に入れる確率})$$

$$\approx 1 - 0.366 = 0.634$$

よって求めた確率は0.634

令和4年度 公開授業研究会 授業研修会記録【数学科】

記録者 山元 裕

I 授業者より本時の授業について

教科書から離れたグループ学習を実施した。全員が参加できるように役割分担として書記、発表、偵察、配布、回収の係を設定した。身近な事象を数学化することを目標にして、生徒に関心の高いガチャを採用した。促進ルールとしてヒントカードを準備したが時間配分が上手くいかなかった。生徒が頑張ってくれて議論が盛り上がり、楽しそうに取り組んでいたのが幸いであった。

II 授業を参観して

(佐々) とてもいい雰囲気だった。身近な話題で生徒もできそうな気がしていたと思う。

(村井) 生徒は確率について%で答えるものと思っているので、分数で答えるような事前の指示が必要。

(智也) モニターにタイマー表示をワイヤレスで表示する等、ＩＣＴ活用がされていた。

(佐優) %の説明が時間不足で不十分だったのが残念だった。グループ活動1回目にしでは生徒がよく活動していた。資料がB4だったので、1つのプリントで振り返るまで完結できていた。

(高明) 生活に密着した内容であった。生徒が楽しそうで、偵察、ヒント等の工夫があった。講義形式だけでは集中力が持たないのでよい試みだと思う。グループ学

習では中学校での経験が生かされていた。

(大沼) 生活に密着した内容で、苦手な生徒も関心を持っていた。資料に全く書いていない生徒もいた。

(釜田) ヒントを小出しにすることで意見交換が活発になっていた。偵察によって新しい考えが入り、議論が深まっていた。

(高渉) 1問目は全員正解だったが、考えがあつてのことか?

(司) 後半時間を取りたかったのだが、あまり上手くいかなかった。

(高渉) グループワークに適したクラスの雰囲気であった。

(佐々) 生徒は $1/100$ の意味は分かっているのか?

(司) 100% を $1/100$ と理解して生徒もいたかもしれない。

(智也) 分母と%が同じ数だったので混同していたかもしれない。分母を20とかにすればよかったですかも。

保健体育「体育」学習指導案

日 時：令和4年11月10日（木）

場 所：秋田県立平成高等学校

対 象：1年1組

授業者：秋元 延大、伊藤 敬子

1 単 元 名 ダンス ウ 現代的なリズムのダンス

2 単元の目標

- (1) リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようとする。
(知識及び理解)
- (2) 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫とともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようとする。
(思考力・判断力・表現力等)
- (3) ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようとする。
(学びに向かう力・人間性等)

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元「現代的なリズムのダンス」は、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」の3項目で構成されている大単元「ダンス」の単元の一つであり、入学年次では、リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付けて、リズムに乗って体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊ることができるようになるを中心構成された単元である。

(2) 生徒観

男子9名、女子20名の計29名で構成される普通課クラスである。体育への関心・意欲が高い生徒が多く、活発に活動する場面も多い。しかし、基礎的な運動能力が低い生徒が多く、腕立てや腹筋などが困難な生徒や、球技などのボールや用具の扱いや、自身の身体をコントロールすることが苦手な生徒が多い。また、集団で活動することに苦手意識を持っている生徒も少なくない。そのため、課題レベルの設定やグループで協力する活動などに工夫が必要な集団である。

(3) 指導観

本単元では、仲間と関わりをもって踊ることに留意させたり、仲間やグループ間で、簡単な作品を見せ合う発表の活動を取り入れたりするようにしたり、現代的なリズムのダンスでは、既存の振り付けなどを模倣することに重点があるのではなく、変化とまとまりを付けて、全身で自由に続けて踊ることを強調することが大切である。

ダンスは、中学校などで必修内容として履修して授業でのダンスを経験してきている。また、スマートフォンやタブレットの普及により、ダンス動画に触れる機会が多く、踊ることが得意・好きな生徒が多いことが予想される。しかし、単純な模倣になることも予想され、自分たちで振り付けを考えることや、教えあつたりするなど練習の進め方への対応が必要である。そのため、クロームブック等を活用し個別やグループ別の課題解決をはかり、ワークシートによりアイディアを出し合うことや、練習への取り組み方の具体例を提示することで、ダンスの楽しさを感じながら、「深い学び」や「対話的な学び」、「主体的な学び」が実現できると考えた。

4 単元計画：現代的なリズムのダンス（12時間）

- (1) グループの作成・グループ目標の設定…… 1時間
(2) ダンスの作成・練習…………… 2～11時間（本時2時間）
(3) 発表会・振り返り…………… 12時間

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解することができる。</p> <p>②リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようになることができる。</p>	<p>○表現などの自己や仲間の課題を見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p>	<p>○ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合うこと、作品や発表などの話合いに貢献しようすること、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりすることができる。</p>

5 本時の計画（2／12）

(1) 内容：現代的なリズムのダンス

(2) 目標：ダンスの作成を通して、仲間とダンスを楽しむための調整の仕方を見付けることができる。
(思考力・判断力・表現力等)

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 10 分	<p>1. ウォーミングアップ</p> <p>2. 本時の目標を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを活用し、簡単なダンスでウォーミングを行うことで、スムーズにダンス練習に取り組めるようにする。 ・ワークシートを活用し、各グループの現在の進度を確認し、本時での作成到達目標を決めさせる。 	
本時の目標 ダンスの作成を通して、仲間とダンスを楽しむための調整の仕方を見付けることができる。			
展開 35 分	<p>3. グループに分かれて、ダンスの作成を行う。</p> <p>4. 本時で作成したダンスを実際にグループで踊って確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力しながらダンスの作成ができるよう、クロームブックを活用して個別や少人数のグループでアイディアを考えさせる。 ・課題曲を体育館全体に流し、各グループで本時に作成した箇所まで踊って確認させる。 ・苦手な生徒の復習用に、クロームブックやスマートフォンで動画を撮影させる。 	
整理 5 分	5. 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させ、提出させることで、本時の作成到達目標と完成までの進度を確認させる。 	【思考・判断・表現】 仲間とダンスを楽しむための調整の仕方を見付けている。 (ワークシート)

ダンスホール・リズムカウント表（組 班）

				担当者名
サビ①	いつだって大丈夫 この世界はダンスホール 君が居るから愛を知ることがまた出来る 「大好き」を歌える	20 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4	
間奏		28 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4	
メロディ①	知らぬ間に誰かいる それに甘えすぎてて 何処かできっと僕の事を 恨んでる人がいる	32 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8	
メロディ②	溜息を吐いて吸って吸って吐かれては 幸せを見逃しちゃうけど きっと結構ありがち 足元にあるもの	32 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8	
サビ②	いつだって大丈夫 この世界はダンスホール 君が居るから愛を知ることがまた出来る 今日もまた陽が昇る 時代が廻るダンスホール 悲しいことは尽き無いけど 幸せを教えてみる	32 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8	
間奏		8 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8	
メロディ③	夢を追う君がいる でもたまに自信を無くして見える 誰かになんと言われようとも 君はそのままがいい	32 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8	
メロディ④	メンタルも成長痛を起こすでしょう 「無理をせず自分らしくいて」 それが出来たら悩んでないよ まぁ明日こそ笑おう	32 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8	
サビ③	結局は大丈夫 この世界はダンスホール 君の隣で愛を情一杯に深したい 今日もまた怒られる 気持ちの穴がポンっと増える 不器用だけど笑ってもらえるように笑う	32 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8	
間奏		36 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4	
サビ④	いつだって大丈夫 この世界はダンスホール 楽しんだもん勝ちだ ダンスホール また陽が昇る 時代が廻るダンスホール 足が疲れても踊る	32 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8	
サビ⑤	結局は大丈夫 この世界はダンスホール あなたが主役のダンスホール You know? その笑顔が僕だけの太陽 君が笑える為のダンスホール この愛を歌い続ける	36 カウント	1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4・5・6・7・8 1・2・3・4	

授業予定日	①11/8 ,②11/10,③11/11,④11/15,⑤11/18,⑥11/22 ⑦11/25,⑧11/29,⑨12/9 ,⑩12/13,⑪12/16,⑫12/20 発表会12月20日（火）
-------	--

月　日	曜日	天気	記録者：
今日のねらい			欠席者： 見学者：
時間	活動計画	活動内容 (話し合った内容、出た意見、動きなども具体的に記入すること)	
10			
20			
30			
40			
今日の反省		次回の課題	

月　日	曜日	天気	記録者：
今日のねらい			欠席者： 見学者：
時間	活動計画	活動内容 (話し合った内容、出た意見、動きなども具体的に記入すること)	
10			
20			
30			
40			
今日の反省		次回の課題	

令和4年度 公開授業研究会 授業研修会記録【保健体育科】

記録者 伊藤 敬子

I 授業者より本時の授業について

中学でもダンス授業は実施されているが、苦手意識を持つ生徒が多い。そのため、この単元ではダンスに対して苦手意識を持たせず、楽しみながら仲間と協力して作品を作り上げることをねらいとし、課題設定などを工夫した。一人が16カウントのダンス作成を必須としたことで責任感が生まれ、クロームブックを活用しながら意欲的に取り組んでくれていた。また、個人が作成した動きを共有してグループで踊った際には、声を掛け合ったりクロームブックで自主的に曲を流し練習するなど、予想していた以上に意欲的な生徒たちの活動が見られた。しかし、グループによって進度の差が出てきており、なかなか進まないグループへの支援や対策をもっと工夫すべきだった。

II 授業を参観して

① 授業全般

(+) • 整列などルールが徹底して守られており、規律ある授業だった。

- どのグループも全員でディスカッションができていた。
- クロームブックを上手に活用していた。
- ダンスに対する苦手意識をなくそうとしていた。

(-) • マスクのためか、声がききとりづらかった。

- ウォーミングアップとダンス授業の関係性は？

② 教師の働きかけ

(+) • 指示が明確だった。

- 班分けを工夫している。
- 体育館全体をよく使っている。
- 各グループに声をかけたり、アドバイスを送るなどをして生徒の積極性を引き出していた。

(-) • 生徒の注意が向く前に指示を出していた。

- クロームブックを使うとき、何も決まっていないグループもあったので、臨機応変に生徒の様子を見て時間を変えるなどの対応があつてもよかつた。
- グループ練習の時の指示が、もう少し具体的であつてもいいのではないか。
- ホワイトボードの時が見えづらい。
- 積極的に関われない生徒への支援。

③ 生徒の学習活動

(+) • 一人ひとりに役割を与えて全員で一つのものを作り上げるチームワーク。

- 全員が主体的な姿勢で参加していた。
- 各グループが楽しそうにダンスしていた。

• 苦手な子にもわかりやすいよう、曲を流しながら個別練習をして教えてあげていた。

(-) • リーダーがいたほうがいいのでは。

- 教える役割の生徒を効果的に使うとよいかも（責任を持たせる）

④ 評価

(+) • 最後の振り返り時に、活動を全体で共有できていた。

(一)・本時のねらいの達成度はどうだったのか。

・いつ、どこで評価を行うのか？

III 共有したい成果や課題、今後に向けた改善策・提案・提言

生徒が非常に明るく、各グループが協力し合って主体的に活動できていた。これから作成が進んでいく中で、客観的に自分たちの動きを見て生かしていく機会や、思考がさらに活発に動く場面の設定があればという意見をいただいた。よりよい作品を作り上げるため、こうした機会を効果的に設定していきたい。また、評価方法としてグループノートを取り入れているが、個人の思考や活動状況を把握するために、個人のチェックシートやグループ内での相互評価があればよいのではないかという意見があった。授業者が思っている以上に、生徒たちはダンスの授業を楽しみ、積極的に活動してくれている。その頑張りを適切に評価するため、いただいたご意見を参考にさまざまな方法を取り入れていきたい。

県立学校新任教務主任研修講座に参加して

教務主任 田 中 剛

5／27（金）秋田県総合教育センター

これからの秋田県学校教育と教務主任への期待

教務主任の職務と役割

学校における組織マネジメント

9／7（水）秋田県総合教育センター

カリキュラム・マネジメント

教務運営に関する課題と解決への取組

学校運営に生かすコーチングマインド

11／4（金）秋田県総合教育センター

教員のための情報モラル

上半期の評価を基にした教育課程上の課題とその対応

学校の組織力向上と教務主任の役割

以上のように多岐にわたる研修であったが、中でも印象深かったのは9／7実施のカリキュラム・マネジメント、学校運営に生かすコーチングマインドについてであった。

カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントの研修では、①教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列していくこと②子供や地域の現状に合わせて教育課程を改善し続けること③教育内容と人的・物的資源等を組み合わせることの3つの側面を意識することが、学校教育の改善充実の好循環を生み出すという内容だった。

本校のカリキュラムにおいて「教科横断的な」議論は十分なされているとは言えない。例えば、情報と数学、商業と数学、英語と国語など、もともと関係が密である教科同士は、お互いを補うための最適な履修順序を検討することがあってもよいのではないかと考えさせられた。人的・物的資源等を組み合わせることでは、外部の人材を授業に生かす取組もあり得るのではないかと考えた。例えば、土木建設系の企業の方に、実際の測量において、数学で学んでいる三角比がどのように活用されているかの講演を依頼するなど地域の人的・物的資源を見直すことは、魅力ある授業づくり・学校づくりのヒントになると感じた。

コーチングマインド

コーチングマインドの講義は、スポ根アニメ「巨人の星」の紹介から始まった。人間は環境が整うと一生懸命頑張る存在であるという自己実現の人間観がコーチングの基本的な考え方であり、学校という組織においてその環境を整える役割を担っているのが、管理職であり、教務主任なのだという説明には、大きなプレッシャーを感じた。でも実際、逆に職員のやる気を失くす言動を何度も経験したことがあるので、確かにそうかもしれないと理解した。

どんな考えも受け止める。失敗しても大事な体験とする（させる）。よい面に目を向ける。他との比較より、自身の変容を認める。という基本姿勢は、分かっていても実際の場面で実践するのは難しい。常に意識しておこうと決めた。

自分自身「出来る人」ではないが、「伸ばす人」にはなれるかも知れない。頑張ってみようと思わせてくれる貴重な研修だった。

高等学校新任学年主任研修講座に参加して

1年部主任 佐々木 優子

期日・場所

第1回 令和4年5月13日(金) 秋田県総合教育センター

第2回 令和4年6月23日(木) 同上

対象

高等学校新任学年主任29名

内容・感想

第1回

<講義>

「望まれる学年主任像と学年主任の役割」

秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 樋口 隆 氏

学年主任時代の具体的な事例をもとにあるべき学年主任の態度や姿勢について伺った。生徒及び保護者の理解・納得を促進する言葉や説明をする努力をすることや、不測の事態に備えて危機管理についてシミュレーションすることの大切さを学んだ。

<実践発表>

「学年経営の実際」

秋田県立秋田北鷹高等学校 教諭 日景 聰 氏

秋田県立本荘高等学校 教諭 佐々木 望 氏

昨年度まで学年主任した先生方2名の学年経営についての経験を伺った。学年部での情報共有、管理職への報告、連絡、相談をしっかりと取ることや3年間を通して先々を見通して仕事をする大切さを再確認した。

<協議>

「学年経営における課題への対応」

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 氏

他校の現状を伺うことができ、初めての学年主任の時は誰もが試行錯誤しながら取り組んでいることを知り、悩んでいるのは自分だけではないと思った。

第2回

<講義・演習>

「生徒指導における学年主任の役割」

秋田県総合教育センター 指導主事 細谷 林子 氏

生徒指導において危機管理の「さしすせそ」を常に意識したい。いじめや不登校への対応では、センターのHPに参考になる資料も活用したい。不登校生徒について、学校に登校させることができではなく生徒の社会的自立へ向けての進路の支援をすることが大事であると伺った。

<講義・演習>

「学年経営と組織マネジメントの基礎」

秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 氏

学年主任の学校におけるミドルリーダーとして自覚を持って取り組む重要性について学んだ。

学年の使命を果たすためにチームの強みを最大限に發揮して生徒の目標を達成させたい。

<講話>

「思春期の揺れと成長とともに歩む」

秋田赤十字病院診療センター 臨床心理士 丸山 真理子 氏

スクールカウンセラーとしての事例などを元に問題を抱えている生徒に対応する際の心構えや考え方について伺った。また生徒だけでなく、共に働く先生方への心配りや、また自分自身の健康の大切さについても学んだ。

おわりに

研修で学んだことを心に刻み、生徒一人一人がより良く成長し卒業するまで責任をもって学年経営に取り組む決意を高めた。

令和4年度 高等学校初任者研修講座を終えて

保健体育科 秋元 延大

1. はじめに

4月当初、教諭として責任ある立場になった高揚感と緊張感を思い出す。新しい学校、新しい生徒、新しい職員の方々と、新しい仕事というはじめての連続に、毎日とても緊張し、なかなか肩の力を抜くことができず、1日をとても長く感じていた。今は学校にも生徒にも職員の方々にも慣れ、4月よりは多くの仕事がこなせるようになったと思う。しかし、時々あの時の気持ちを忘れかけている自分に気づき、反省する。これまでの一年間を振り返ることで、晴れて教育公務員という立場で「教師」という仕事ができる喜びをかみしめていた4月当初の気持ちを、改めて思い出し、これから自身の教育活動の糧としていきたい。

2. 校外研修

(1) 総合教育センターでの研修

センターでの研修内容は、教育公務員としての服務や生徒指導、進路指導、学級経営など教員として身につけておくべき基本的事項から、特別支援教育について、授業技術の向上、授業改善等について、また、最新の教育方法や教育事情、データ、本県の現状など多岐にわたった。教科の研修では、学習指導要領や学習指導案等についての教科指導の基本、模擬授業を通しての具体的・実践的な指導方法など、丁寧にご指導いただきながら、初任者同士で意見を出し合い、批評し合い、解決策を考えるといった協議を積み重ねることで、互いに高め合うことができた。センター研修では、指導主事の先生方をはじめ、講師の先生方、同期採用の先生方と多くの方々から教員として大切にしていかなければならないことを学び、考える機会をいただき、教員として成長することができたと思う。

未来の力である生徒のため、心に火をつけられるよう、ついた火を絶やさぬよう、センター研修での学びを、今後にしっかりと生かしていきたい。

(2) 授業研修

授業研修では、指導主事の先生方によるご指導のもと、模擬授業や授業参観、授業研究、活発な意見交換・検討会・協議会などにより、授業力向上に努めることができた。模擬授業では、授業者になるだけでなく、生徒役になって授業を受けるという機会があった。生徒と同じ目線で授業を実際に受けてみると、授業者の先生方が生徒の興味・関心を高めたり、分かりやすくするためにさまざまな工夫点を実感することができた。また、新しい視点から授業を見つめることができ、非常によい経験となった。私自身が授業者として模擬授業を行った際には、自分では気づくことのできない部分にスポットを当ててもらい、多くの貴重な意見をいただくことができた。反省点を生かし、よい点として挙げてもらった事項に関しては継続していくように取り組んでいきたい。

また、定時制・通信制高等学校の生徒による生活体験発表大会を聴講した際には、生徒たちが、これまでの人生の背景にあるものや、これまで抱えてきた自分の想いを等身大で精一杯表現している姿に胸が打たれた。全日制・定時制・通信制に関わらず、多くの人に支えられながら、自身と葛藤し、自分と向き合って精一杯頑張っている生徒たちの人生の支えの一部になれるよう、これから私自身も人とのつながりを大切にし、向上心をもって人として、教師として成長していきたい。

3. 校内研修

(1) 一般研修

一般研修では、松岡校長、佐々木教頭、佐藤事務長、指導教員の伊藤先生、各分掌の先生方をはじめとした多くの先生方に、本校の実態に基づいてご指導いただいた。どの先生方もこれまでの実体験などに基づいて、丁寧にわかりやすくお話をしてくださいととても参考になった。また、日々の生活の中でも、先生方の姿や言動からは数多くのことを学ぶことができた。その中で感じたのは、生徒との日頃の関わり合い、そして教職員間のコミュニケーションと連携がとても大切であるということだ。人同士のつながりが、教育には極めて重要であるということを改めて学ぶことができた。いただいたあたたかいお言葉や的確なアドバイスをしっかりと生かし、これからも懸命に学び続け、自身の教員としての力量を高めてきたい。

(2) 教科研修

教科研修では、一般研修同様、教科指導員(指導教員)の伊藤先生のご指導のもと、多くの先生方の授業参観を通して、授業の導入や展開、まとめの仕方などの授業の技術について学ぶことができた。また、研究授業・授業研修会ではひとつの教材としっかり向き合い、教材研究を行うことができた。参観してくださった多くの先生方からは貴重な御助言をいただき、自身の課題を把握するとともに授業改善につなげることができた。特にこの一年では、これから社会を生き抜く力を身につけさせるために、授業では明確に目指す生徒像を意識し、ねらいをもって授業を進めていくことを忘れてはならないという点を強く感じた。今後も、教科にとらわれず、多くの先生方の授業を参観し、また、研究授業に積極的に取り組み、授業技術の向上に努めたい。

4. おわりに

これまでの研修を振り返って思うのは、生徒は教師を映す鏡であり、教師は生徒のために自分を磨き、学び続ける必要があるということである。これまでの研修からは大いに学び、学んだことから自身を磨き続けてこられたと思う。ただし、研修というのは教師の自己満足で終わってはならない。生徒に還元できてはじめて意味がある。これまでの私の学びや磨きを生徒たちに還元していくよう、授業や日々の生活の中で指導やサポートに力を入れ、工夫をしていきたい。「先生」と呼ばれることに幸せを感じた初心と、4月当初の気持ちを忘れず、向上心を持ち続けて、これまで支えていただいた多くの方々に感謝すると共に、これまで出会った生徒はもちろん、これから出会う多くの生徒たちのために自身の力を注ぎ、懸命に努力していきたい。

令和4年度 高等学校講師等研修講座Aを終えて

臨時講師 赤塚 裕人

1 はじめに

今年度初めて秋田県の臨時講師として勤務するため、高等学校講師等研修講座を受講させていただく機会を得た。当日の検温・体調確認や研修会場の消毒、換気など感染症対策を徹底した上で開催であった。実施講座の概要と感想を以下に記し、報告とする。

2 期日・場所

令和4年4月26日（火） 秋田県総合教育センター

3 概要

対象：秋田県の教員として初めて勤務する、今年度高等学校に所属する講師（臨時）

目標：教員としての心構えを身に付け、県内の公立学校に勤務する講師等として必要な資質能力の向上を図る。

4 研修内容・感想

〈講義〉

教育公務員の服務

秋田県教育庁高校教育課 管理主事 柴田 果織 氏

教育公務員としての服務上の責任を考えた。特に懲戒処分行為の未然防止策では他の講師とも意見を交流でき、自分にはない視点での考えを得ることができた。教員としての責任を念頭に置き、仕事に真摯に向き合おうという気持ちが高まった。

〈講義・演習〉

学校組織の一員として 一組織人の基本一

秋田県総合教育センター 指導主事 森川 剛 氏

仕事のQCDやPDCAサイクルなど組織で動く上での理念とともに、学校組織の一員としての基本を学んだ。PDCAを授業や学級経営の中で考える演習では、計画や実践は元より、実践での振り返りや次回の授業に向けて改善することの重要性に気づかされた。

〈講義・演習〉

「あきたのそこぢから」を活用した授業づくり

秋田県総合教育センター 指導主事 物部 長幸 氏

授業の基礎・基本がまとめられた「あきたのそこぢから」という冊子を使い、授業実践の技術や授業改善の手がかりを教授していただいた。生徒に寄り添い、考える力を引き出そうとする助言や発問、板書の工夫などを多く知ることができ、毎日の実践に生かしたいと感じた。

〈講義・演習〉

人間関係づくりについて

秋田県総合教育センター 指導主事 細谷 林子 氏

人間関係開発を意図したグループ体験である構成的グループ・エンカウンターの演習を通して、柔軟に人と接することや非言語コミュニケーションを大事にすることを学ぶことができ

た。話すことが苦手な生徒や相手に対しては、非言語的な表現を汲み取る意識も忘れないよう
にしたいと感じた。

情報教育推進研修講座(B 研修)を終えて

情報部 主任 沼倉 徹

1 研修の目的

ICT を活用した「授業作り」や「情報モラル」についての理解を深め、情報教育の推進者としての知識を養う。

2 期日・場所

令和4年9月6日(火) 秋田県総合教育センター

3 概要

対象：小中高情報教育担当者 28 名

4 研修内容

講義 ICT を活用するために(秋田県総合教育センター 指導主事 鈴木紀子)

全国・秋田県内の情報教育の現状や課題について説明いただいた。

特に県内においては、新学習指導要領に対応するべく、校種によって様々な事業を展開していることを知ることが出来た。

小中学校に関しては、全国学力テストの結果と ICT 活用の整合性について、詳細な説明があった。高等学校に関しては、普通高校においてデジタル人材を育成するために、令和6年度から9校の普通科に「デジタル探求コース」が設置されることについて、具体的な校名を挙げながら紹介があった。

協議・演習 ICT を活用した各校の取り組みについて(秋田県総合教育センター 指導主事 鈴木紀子)

校種ごとに3~4名のグループを作り、各校の ICT 活用の現状と課題について話し合った。

私が属したグループのメンバーは、偶然にも各校の情報教育推進リーダーだったので、タブレットや電子黒板の使用について、それぞれの取り組みを紹介し合った。

先進的な事例発表よりも課題について話題になることが多く、共通している課題は、担当者の負担が大きすぎること、それを改善する術が現状見当たらないことだった。

公開講演 「 GIGA スクールにおける新たな学びと情報活用能力の育成 」

(東北学院大学 文学部 教授 稲垣 忠)

講演内容のキーワードは「 DX(Digital Transformation) デジタルによる新たな価値の創造 」だった。

教師主導の ICT 活用の時代はすでに終わり、児童生徒指導の日常的な ICT 活用も常識的になっていて目新しさはない。今求められているのは「 教育 DX を通した進化した学校の創造 」という点を強調していた。

授業の DX だけではなく、校務の DX も進めていく必要があり、一部の自治体では、すでにその取り組みが始まっていると、事例紹介もあった。どのようなことが可能であるかを体験するために、講師のプレゼンテーションに、参加者がスマートフォンを活用してリアルタイムで繋がっていく場面も設けられた。

令和5年度からは、本県でも「 新校務支援システム 」が導入される。学校そのものにどのような変化が生まれていくのか、今後の展開を注視していきたい。

学校組織マネジメント研修講座を終えて

教諭 佐々木 司

1 はじめに

今年度学校組織マネジメント研修講座を受講する機会をいただいた。感染症拡大状況もあり、I期、II期ともオンラインでの開催となった。実施講座の概要と感想を以下に記し、報告とする。

2 期日・場所

[I期] 6月28日(水) [II期] 11月17日(木)

オンライン

3 概要

対象：小中高特別支援学校教諭 32名

目標：学校組織マネジメントに関する内容や学校運営上の課題解決に向けての方策について、主体的・対話的に研修を深め、教育実践の中核を担う教員としての資質向上を図る。

4 研修内容

I期 <講義・演習> 本県の教育課題とミドルリーダーへの期待

<講義・演習> 学校組織マネジメントとミドルリーダーの果たす役割

<講義・演習> 学校におけるリスクマネジメント

「本県の教育課題とミドルリーダーへの期待」では、現在の日本の教育の問題点や秋田県の課題など数々の問題がある中で、我々の世代が学校の中核を担い職場の職員や管理職などの潤滑油や、自校の教育活動に対して積極的に働くことが大切だと感じ身が引き締まる思いであった。

「学校におけるリスクマネジメント」では付箋紙によるリスクマップ作成が大変参考になったとともに、事故の未然防止の大切さを実感した。

II期 <講義・協議・演習> 社会に開かれた教育課程

<講義・演習> 内外環境の把握による学校の特色づくりと課題解決策

「社会に開かれた教育課程」では、地域との協働についての理解を深めることができた。

グループ協議では学校祭について、仮装行列と実業高校の販売についての取り組みを通じて地域との協働を語る話などもあり大変学びの多い時間であった。KPT法も議論の進め方、思考の整理の方法として優れており活用できる場面では活用したいと思うメソッドであった。

また「内外環境の把握による学校の特色づくりと課題解決策」ではSWOT法を初めて知ることができた。大変理解しやすく、活用しやすいものであるため新しくプロジェクトを始める際などは是非活用していきたい。

編集後記

各教科において、研究主題（テーマ）を設定して、相互授業参観や校内授業研究会において活発に活動しました。昨年度、各教室に電子黒板が導入され、生徒一人ひとりに Google Chromebook も割り当てられその活用法を模索してきた一年でした。公開授業研究会でもそれらを活用して、生徒の興味・関心を引き出す授業実践に取り組んでいます。ICT 活用能力など新しい時代に求められる資質・能力の育成へ向けた有意義な研究にもなったかと思います。

最後に研修集録を見ての御意見・御感想等お待ちしております。何なりとお寄せください。

令和4年度 研修集録

発行日 令和 5年 3月 1日
編集行 秋田県立平成高等学校
TEL 0182-24-1195
FAX 0182-56-3008
<http://www.heisei-h.akita-pref.ed.jp/wp/>